

ベルルスコーニ伊首相

フリーメイソンが支援



フリーメイソンとベルルスコーニ首相の関係を語る、イタリアのフリーメイソン団体「ダランデ・オリエンテ・デモクラティコ」のジョエレ・マガルディ代表。ローマで藤原撮影

「70～80年代に融資」

現地代表証言



ベルルスコーニ
伊首相

【ローマ藤原章生】中世の英国を起源とする「友愛団体」フリーメイソンがイタリアで組織する「ダランデ・オリエンテ・デモクラティコ」のジョエレ・マガルディ代表(39)がこのほど取材に応じ、ベルルスコーニ・イタリア首相が地方の建設業者からメディア王にのしあがった70～80年代にかけ「フリーメイソンの秘密結社会員である」ミ

ラノの銀行頭取や幹部が2000億(約120億円)をベルルスコーニ氏に有利な条件で融資した」と証言。首相が当時、フリーメイソン関係者から支援を受けたとの情報を明らかにした。首相がメディア王になった経緯は謎も多く、その一端を示す証言として注目される。

マガルディ代表は「ベルルスコーニ氏は68年、スイスの複数の銀行から融資を受け傘下の建設会社を率い、ミラノ郊外の住宅開発『ミラノ2』を手掛けた。ベルルスコーニ氏がフリーメイソンに接近したのはこのころ」と話す。当時、フリーメイソンの秘密結社P(プロバガンダ)2があった。P2のジェッリ代表(当時)は「ベルルスコーニ氏は74年には会員だった」と証言している」という。

「ミラノ2」の住宅販売はうまくいかずベルルスコーニ氏は一時、破産寸前に陥った。代表は「アンドレオッティ元首相の側近でP2会員のデ・ロレンツォ医療協会会長と、他の会員が率いる政府系や民間の財団が『ミラノ2』を買い支えた」と述べたうえで、ミラノの銀行幹部による巨額融資の情報を明らかにした。

なぜベルルスコーニ氏を支援したのか。代表は「ジェッリ代表らP2幹部が78～80年にかけて『民主的復興計画』と称し、自らの利益のため(当時イタリアになかった)複数の民放局を築こうとしたためだ。中堅紙ジョルナレ紙の株取得などでメディアに参入していたベルルスコーニ氏を『トロイの木馬』(敵陣に入り込む秘密兵器)にする企

てだった」と話す。ところが81年にP2の存在が発覚し、ジェッリ代表はスイスに逃亡し組織は解散。当時の首相ら閣僚が辞任するスキャンダル「P2事件」に発展すると、「ベルルスコーニ氏は」身辺整理し、自分に司法(の手)が及ばないよう防衛に回り、以後はフリーメイソンの主力団体グランデ・オリエンテ・ディタリアに属する穏健な会員に近づき、80年代、民放局の独占体制を築いた」と代表は話す。

81年3月、司法当局が北部で押収したP2の会員名簿に「会員番号1816」としてベルルスコーニ氏の名があった。だがベルルスコーニ氏は結社との関係を明らかにせず、P2に関する議会調査委員会の文書も非公開のため、その活動の詳細は明かされていない。